

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法概論Ⅱ		作業療法学科/3年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	馬場 広志・谷淵 加奈子
授業の概要				
管理運営や関係法規、研究法について知識を習得し、臨床実習や臨床業務においてその知識が活用できるようにする。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・組織体制と作業療法部門との関係を把握し、関連する管理運営を整理できる。 ・研究の方法および構成について理解できる。 ・倫理について学び、自分自身との関係について考える機会をもつ。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		馬場 広志：作業療法士として5年以上の実務経験 病院での経験を活かし、報告書などの書類作成や医療、介護保険の知識を伝える。 谷淵 加奈子：作業療法士として5年以上の実務経験 病院や施設での経験、研究・学会発表等の経験を活かし、学生に教授する。		
時間外に必要な学修				
<ul style="list-style-type: none"> ・予習：事前に関連する内容を、作業療法概論の教科書で確認しておく。 ・復習：配布資料、教科書を使用して振り返る。 				
回	テーマ	内容		
1	作業療法と組織、マネジメント	作業療法におけるマネジメント、目標管理と目標設定 病院組織の特徴と作業療法士の役割		
2	作業療法と業務管理	病棟・施設業務管理 院内活動		
3	作業療法と人・物・情報のマネジメント	教育システム、キャリア開発、環境整備と物品管理 診療記録、個人情報		
4	医療安全のマネジメント	リスクマネジメント、ヒューマンエラー 作業療法におけるリスクマネジメント		
5	作業療法士の役割と職域	理学療法および作業療法士法と定義、職域 医療保険制度(診療報酬)のしくみ		
6	作業療法を取り巻く諸制度1	障害者総合支援法、精神保健福祉法		
7	作業療法を取り巻く諸制度2	介護保険法 道路交通法(高齢者の自動車運転)		
8	作業療法士の職業倫理	公民の倫理、個人的倫理、医学・医療にみる倫理 作業療法の倫理綱領と課題		
9	作業療法の研究法1	研究の目的、方法		
10	作業療法の研究法2	文献検索 学会発表、事例		
11	作業療法の研究法3	研究計画表の書き方、文献検索		
12	作業療法の研究法4	研究計画表作成		
13	作業療法の研究法5	発表資料作成		
14	作業療法の研究法6	発表1		
15	作業療法の研究法7	発表2		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・プリント配布 ・作業療法概論 ・研究マニュアル 		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動作分析セミナーⅡ		作業療法学科/3年	2020/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	植野 英一
授業の概要				
疾患による動作の影響を観察して分析する。 各ADLの獲得に向けた動作指導ができるよう得られた情報をもとに、目標・プログラム設定を行う。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・動作を観察する視点を養い、疾患の特性による分析が行えること。 ・分析した結果を元に、目標・プログラム設定ができること。 ・動作分析に基づいた指導法を実施することができること。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かし、学生に分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
テキストを読んで、授業で説明した内容の振り返りを行う。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション 動作分析セミナーⅠの振り返り	授業概要の説明 動作観察と分析について		
2	脳血管障害による片麻痺者の 動作分析(起き上がり) 1	1. 観察のポイントの確認、2. グループワーク		
3	脳血管障害による片麻痺者の 動作分析(起き上がり) 2	分析結果と動作指導の発表		
4	脳血管障害による片麻痺者の 動作分析(立ち上がり) 1	観察のポイントの確認 グループワーク		
5	脳血管障害による片麻痺者の 動作分析(立ち上がり) 2	分析結果と動作指導の発表		
6	脳血管障害による片麻痺者の 動作分析(更衣動作) 1	観察のポイントの確認 グループワーク		
7	脳血管障害による片麻痺者の 動作分析(更衣動作) 2	分析結果と動作指導の発表		
8	パーキンソン病における動作分析 (立位と歩行) 1	観察のポイントの確認 グループワーク		
9	パーキンソン病における動作分析 (立位と歩行) 2	分析結果と動作指導の発表		
10	パーキンソン病における動作分析 (起居動作) 1	観察のポイントの確認 グループワーク		
11	パーキンソン病における動作分析 (起居動作) 1	分析結果と動作指導の発表		
12	掃除機を使った掃除動作分析	観察のポイントの確認 グループワーク、発表		
13	洗濯物干し	観察のポイントの確認 グループワーク、発表		
14	自由課題 1	グループで興味関心ある動作に着目し分析を行う。		
15	自由課題 2	発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
実践!動作分析(医歯薬出版)		課題・レポート	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
ペーパーペイシエントセミナー		作業療法学科/3年	2020/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	1単位(60時間)	必須	馬場 広志、谷淵 加奈子 前田 悠志(外部講師)
授業の概要				
作業療法で関わる各領域において、得られた情報から作業療法の目標・プログラムを作成し、実施する。				
授業終了時の到達目標				
各領域において得られた情報の統合を行い、目標・プログラムを作成し、実施する事が出来る。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		馬場 広志：作業療法士として5年以上の実務経験 これまでの臨床経験を用いて、目標とプログラム作成について指導する。 谷淵 加奈子：作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を用いて、評価の視点～目標とプログラム作成について指導する。 前田 悠志：作業療法士として5年以上の実務経験 精神科病院での作業療法経験を用いて、指導する。		
時間外に必要な学修				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 予習：各領域における疾患の特徴を確認しておく ・ 復習：学んだり気づいたことを振り返る 				
回	テーマ	内容		
1	事例報告書の作成 1	各領域での事例について、統合と解釈を行う ICFで全体像把握、問題点抽出し、作業療法計画		
2	事例報告書の作成 2	各領域での事例について、統合と解釈を行う ICFで全体像把握、問題点抽出し、作業療法計画		
3	事例報告書の作成 3	各領域での事例をレポートにまとめる		
4	事例報告書の作成 4	各領域での事例をレポートにまとめる		
5	事例報告書の発表 1	各領域ごとに事例を発表し、ディスカッションを行う		
6	事例報告書の発表 2	各領域ごとに事例を発表し、ディスカッションを行う		
7	事例報告書の発表 3	各領域ごとに事例を発表し、ディスカッションを行う		
8	事例報告書の発表 4	各領域ごとに事例を発表し、ディスカッションを行う		
9	作業療法プログラム立案 1	各領域ごとに作業療法プログラムを立案する		
10	作業療法プログラム立案 2	各領域ごとに作業療法プログラムを立案し、治療道具の作成を行う		
11	作業療法プログラム立案 3	各領域ごとに作業療法プログラムを立案し、治療道具の作成を行う		
12	作業療法プログラムの実施 1	模擬患者を想定し、作業療法プログラムを実施する		

回	テーマ	内 容		
13	作業療法プログラムの実施 2	模擬患者を想定し、作業療法プログラムを実施する		
14	作業療法プログラムの実施 3	模擬患者を想定し、作業療法プログラムを実施する		
15	事例検討1	急性期の事例紹介 動画視聴、個人・グループワーク		
16	事例検討1	目標・プログラム設定		
17	事例検討1	発表と振り返り		
18	事例検討2	地域の事例紹介 動画視聴、個人・グループワーク		
19	事例検討2	目標・プログラム設定		
21	事例検討3	作業療法理論を用いたクライアント中心の実践 事例紹介と解釈・介入方法		
22	事例検討3	グループワークと発表		
23	精神領域の作業療法	精神障害について事例検討		
24	精神領域の作業療法	精神障害について事例検討		
25	精神領域の作業療法	精神障害について事例検討		
26	精神領域の作業療法	精神障害について事例検討		
27	精神領域の作業療法	精神障害について事例検討		
28	精神領域の作業療法	精神障害について事例検討		
29	精神領域の作業療法	精神障害について事例検討		
30	精神領域の作業療法	精神障害について事例検討		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布 作業療法を観る（GBR）、他		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
職業関連活動学		作業療法学科/3年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	馬場 広志
授業の概要				
職業リハビリテーションの概念を学び、人にとっての職業の意味を知る。職業に関連する制度や作業療法の流れと支援技術を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
障害者の就労支援に関連する制度や作業療法評価、支援について説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 これまでの作業療法士としての臨床経験を生かして指導する。		
時間外に必要な学修				
<ul style="list-style-type: none"> 配布資料をもとに、振り返りながら学習する。 障害者の職業に関するニュースや情報に目を向けておきましょう。 				
回	テーマ	内容		
1	職業関連活動概論	職業リハビリテーションの概念 就労支援に関する理論 障害者にとっての職業とは		
2	障害者の就労制度	障害者雇用促進法、障害者総合支援法 障害者雇用率制度、就労移行支援、就労継続支援		
3	障害者の就労支援	就労支援施設とその業務(ハローワークなど) ジョブコーチ、リワーク、IPS		
4	職業関連活動における作業療法1	就労支援における作業療法の役割 関連職種・機関との連携		
5	職業関連活動における作業療法2	作業療法評価 職業興味評価、職業能力適正評価など		
6	障害別就労支援の実際1	高次機能障害に対する就労支援 グループワーク		
7	障害別就労支援の実際2	発達障害、知的障害に対する就労支援		
8	障害別就労支援の実際3	統合失調症、うつ病、身体障害に対する就労支援		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> プリント配布 作業療法ジャーナル 厚生労働省ホームページ資料 職業関連活動(協同医書) 		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習 I		作業療法学科/3年	2020/前期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
9時間	20回	4単位(180時間)	必須	山下 良二
授業の概要				
学校が連携している臨床経験3年目以上の作業療法士(臨床実習指導者)が勤務する医療施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
実習終了時の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 職業人としての望ましい態度や行動をとることができる。 2. 対象者の全体像を把握できる。 3. 対象者の作業療法計画を立案できる。 4. 対象者へ治療・指導・援助を実施することができる。 5. 記録・報告をすることができる。 6. 管理・運営について理解することができる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験をもとに、的確に学生をフォローする。		
時間外に必要な学修				
自己学習とデイリーノートのまとめ Clinical Recordの記載				
実習内容				
<p>臨床実習は、第3学年に行われる臨床場面での実習であり、当校で学習した知識と技術・技能および態度を臨床における作業療法体験により統合する課程である。</p> <p>学生は臨床実習指導者の指導のもとに、対象者の全体像の把握、作業療法計画、治療・指導・援助などを通して、作業療法士としての知識と技術・技能および態度を身に付け、保健・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高めるものである。</p>				
実習学生としての役割と責任				
<ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床実習指導者のもとで作業療法士としての役割と責任を部分的に実践する。 作業療法部門の日課に参加し、臨床実習指導者の指導のもとで作業療法士の診療補助体験や、対象者への問診、検査測定等の評価を行う。 また、評価結果統合と解釈(考察)を行い、目標の設定と治療プログラムを立案し作業療法の成果を確認する。必要に応じて作業療法計画を見直すことができる。 2) 実習施設における態度、行動については、『実習にあたっての心得』を参照し、各施設の規則を遵守する。 3) 『デイリーノート』を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。 4) 『ケースノート』を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。 5) 実習終了時『臨床実習成績報告書』の中の学生意見を記入し、臨床実習指導者と話し合う。 6) 各施設での実習終了後、学校でケースレポートを作成し、各自の実習経験と併せてセミナーにて報告発表を行なう。 				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料 ・デイリーノート ・Clinical Record 		実習・実技評価	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習Ⅱ		作業療法学科/3年	2020/前期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
9時間	30回	4単位(180時間)	必須	山下 良二
授業の概要				
学校が連携している臨床経験3年目以上の作業療法士(臨床実習指導者)が勤務する医療施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
実習終了時の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 職業人としての望ましい態度や行動をとることができる。 2. 対象者の全体像を把握できる。 3. 対象者の作業療法計画を立案できる。 4. 対象者へ治療・指導・援助を実施することができる。 5. 作業療法の成果を確認し、必要に応じて作業療法計画を見直すことができる。 6. 記録・報告をすることができる。 7. 管理・運営について理解することができる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験をもとに、的確に学生をフォローする。		
時間外に必要な学修				
自己学習とデイリーノートのまとめ Clinical Recordの記載				
実習内容				
<p>臨床実習は、第3学年に行われる臨床場面での実習であり、当校で学習した知識と技術・技能および態度を臨床における作業療法体験により統合する課程である。</p> <p>学生は臨床実習指導者の指導のもとに、対象者の全体像の把握、作業療法計画、治療・指導・援助などを通して、作業療法士としての知識と技術・技能および態度を身に付け、保健・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高めるものである。</p> <p>実習学生としての役割と責任</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床実習指導者のもとで作業療法士としての役割と責任を部分的に実践する。 作業療法部門の日課に参加し、臨床実習指導者の指導のもとで作業療法士の診療補助体験や、対象者への問診、検査測定等の評価を行う。 また、評価結果統合と解釈(考察)を行い、目標の設定と治療プログラムを立案し作業療法の成果を確認する。必要に応じて作業療法計画を見直すことができる。 2) 実習施設における態度、行動については、『実習にあたっての心得』を参照し、各施設の規則を遵守する。 3) 『デイリーノート』を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。 4) 『ケースノート』を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。 5) 実習終了時『臨床実習成績報告書』の中の学生意見を記入し、臨床実習指導者と話し合う。 6) 各施設での実習終了後、学校でケースレポートを作成し、各自の実習経験と併せてセミナーにて報告発表を行なう。 				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料 ・デイリーノート ・Clinical Record 		実習・実技評価	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習Ⅲ		作業療法学科/3年	2020/前期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
9時間	40回	4単位(180時間)	必須	山下 良二
授業の概要				
学校が連携している臨床経験3年目以上の作業療法士(臨床実習指導者)が勤務する医療施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
実習終了時の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 職業人としての望ましい態度や行動をとることができる。 2. 対象者の全体像を把握できる。 3. 対象者の作業療法計画を立案できる。 4. 対象者へ治療・指導・援助を実施することができる。 5. 作業療法の成果を確認し、必要に応じて作業療法計画を見直すことができる。 6. 記録・報告をすることができる。 7. 管理・運営について理解することができる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験をもとに、的確に学生をフォローする。		
時間外に必要な学修				
自己学習とデイリーノートのみ Clinical Recordの記載				
実習内容				
臨床実習は、第3学年に行われる臨床場面での実習であり、当校で学習した知識と技術・技能および態度を臨床における作業療法体験により統合する課程である。 学生は臨床実習指導者の指導のもとに、対象者の全体像の把握、作業療法計画、治療・指導・援助などを通して、作業療法士としての知識と技術・技能および態度を身に付け、保健・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高めるものである。				
実習学生としての役割と責任				
<ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床実習指導者のもとで作業療法士としての役割と責任を部分的に実践する。 作業療法部門の日課に参加し、臨床実習指導者の指導のもとで作業療法士の診療補助体験や、対象者への問診、検査測定等の評価を行う。 また、評価結果統合と解釈(考察)を行い、目標の設定と治療プログラムを立案し作業療法の成果を確認する。必要に応じて作業療法計画を見直すことができる。 2) 実習施設における態度、行動については、『実習にあたっての心得』を参照し、各施設の規則を遵守する。 3) 『デイリーノート』を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。 4) 『ケースノート』を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。 5) 実習終了時『臨床実習成績報告書』の中の学生意見を記入し、臨床実習指導者と話し合う。 6) 各施設での実習終了後、学校でケースレポートを作成し、各自の実習経験と併せてセミナーにて報告発表を行なう。 				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・配布資料 ・デイリーノート ・Clinical Record		実習・実技評価	100%	